

論文番号 225

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名(原題/訳)

The Social Ecology of Addiction: Race, Risk, Resilience

嗜癮の社会生態学：人種、危険性、回復力

執筆者

Wallace JM Jr.

掲載誌(番号又は発行年月日)

Pediatrics 1999; 103:1122-1127.

キーワード

アルコール、人種別民族別差異、危険因子、民族アイデンティティ

要旨

(背景) この論文の目的は、小児科医やその他の保健医療従事者に、黒人やヒスパニック系アメリカ人が薬物使用に走りやすい要因は何かを提示し、薬物使用に反対している黒人やヒスパニック系団体の人々を援護し、薬物使用を予防する特異的な方法がないかどうかを考察することを目的としている。

(方法) 疫学・生態学・アルコールやその他の薬物使用についての文献で、白人・黒人・ヒスパニック系の成人や青年についてかかれたものを検索した。

(結果) 様々な人種や民族の人々が暮らしている地域の実情を反映して、また、人々の付き合い方の相違による影響や、あるいは、個人こじんが持っている心理的要因や行動様式に影響されて、直接的にも間接的にも、過去から現在にわたる人種差別や人種差別思想が、黒人やヒスパニック系の人々の薬物使用への危険性を高めていると考えられた。

(結論) 小児科医やその他の保健医療従事者は、個人こじんの個別行動にのみ注目し勝ちであるが、これらの患者の行動は彼らの住む地域や社会的要因に影響されて生じるものであり、それらの要因を考慮に入れて診察・診断し、治療することが必要である。